



福岡城天守の復元について 考える市民フォーラム ～お城のあるまちづくり～ 開催報告



▲パネルディスカッションの様子(左から、毛屋委員、石井委員、谷川会頭、本郷 東京史料編纂所教授、山中座長、丸山委員、佐藤委員、千委員、高木委員、川原座長代理、津田委員)

「福岡城天守の復元的整備を考える懇談会(以下、ふくふく懇)」(事務局:当所)は8月27日、福岡城天守の存在及びその姿についての研究成果を披露するとともに、福岡城跡をどのように活用していくべきかを市民の皆様と一緒に考える「福岡城天守の復元について考える市民フォーラム～お城のあるまちづくり～」を電気ビルみらいホールにて開催し、定員を超える約450名が参加した。

冒頭、ふくふく懇の山中伸一座長(元・文部科学事務次官、角川ドワンゴ学園理事長)が挨拶を行い、これまでの取組みを説明。懇談会がとりまとめた「福岡城天守に関する史料」の中から天守建築の命令や破却に関する史料、また天守が描かれた絵図などを紹介した上で、「天守の存在を否定することが難しい」と報告した。また、今枝宗一郎・文部科学副大臣からは、「今後の復元的整備の在り方として、学術的にきちんと理解をしながら、もう少し柔軟に、市民感覚、国民感覚を持つものにしたい。

また、福岡城天守の復元的整備について、私も一緒に考え、努力をさせていただきたい」とビデオメッセージが寄せられた。

続く基調講演では、東京大学史料編纂所教授 本郷和氏が、「商都・博多と武家の町・福岡」をテーマに講演。講演の中で本郷氏は、「福博は『民衆がつくった街・博多』と『武士がつくった福岡』が融合した貴重な街であり、その歴史の象徴として天守が復元されることは、とても意義深い」と述べた。

基調講演終了後は、本郷氏とふくふく懇委員らを交え、3つの論点(①福岡城天守の存在有無 ②福岡城天守の姿は五重六階地下一階 ③今後の福岡城跡の活用)についてパネルディスカッションを実施。参加した市民からは、「天守がないのは寂しい。観光資源としても復元してほしい」などの声が寄せられた。ふくふく懇では、今後も市民の意見などを聞きながら、福岡城天守の復元について議論を進めていく。



▲満員の会場



▲基調講演を行う本郷教授



▲パネルディスカッションで天守を復元する意義を説く谷川会頭

ふくふく懇の取組みについて福岡市長へ報告

9月2日に高島・福岡市長に対し、「福岡城天守の復元的整備を考える懇談会」における、これまでの検討状況について報告を行った。

谷川会頭は「学術的には『天守が実在した』というのが通説となっている。さらに詳しい調査が必要なので、行政にも協力いただきたい」と述べ、高島市長からは「いただいたご意見を踏まえ、関係部署と今後の進め方について検討していきたい」と前向きな意見をいただいた。



▲高島市長に報告書を手交する谷川会頭